

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°27 ナナ・ヴァン

生産地方：ラングドック

新着ワイン 2 種類♪

VdF ペティアン・ナチュレル ソー・ワット！2013（白泡）

※前回から4年熟成！新ロットが再入荷！

2015年に初リリースしたソー・ワットをさらに4年間長く瓶内二次発酵&熟成させて再リリース！彼女自身、長期瓶熟のアイデアは2016年にリリースしたシュナンのペティアン「ハッピー2010&2013」からヒントを得ている。ナタリー曰く、品種によって長期熟成の向き不向きがあるとのこと。テレブランは、彼女が初めてソー・ワットを仕込んだ時にすでに熟成の可能性を感じていたようで、半分は長期瓶熟にしようと仕込み当時から決めていたそうだ！

VdF エンジョイ！2016（赤）

ナタリー曰く、2016年は夏が暑かったが、収穫前に適度な雨が降ったおかげでアルコールのボリュームが緩和され、最終的にエレガントでとてもバランスの良いワインが出来たとのこと。仕込みはパタポン同様に全房のブドウと除梗したブドウをミルフィーユ状に重ねてマセラシオン。きれいな果実味を生かすためにマセラシオン期間は15日間と早めに切り上げている。ワインは、果実味が艶やかでみずみずしくチャーミングな酸の効いた軽快な味わいに仕上がっている！

◆VCN°26 ドメーヌ・ル・ブリゾー

生産地方：ロワール

新着ワイン 2 種類♪

VdF パタポン 2017（赤）

2017年は、前年同様春に遅霜が降り、モルティエの畑以外は甚大な被害に遭った。また霜の影響によりブドウの成熟がバラバラになってしまったため、モルティエを格下げし、全てのピノドニスに合わせてパタポンをつくった。醸造は、いつも通り全房のブドウと除梗したブドウを交互にミルフィーユのように重ねたマセラシオンを施した。また、この年は軽快な果実味を重視するためロングマセラシオンは行っていない。ワインはピノドニスらしい黒胡椒のスパイシーな風味とユーカリのような個性があり、軽快な飲み心地。中盤からアフターにかけて、収斂したタンニンを感じるが、さすがモルティエが入っているだけあって、酒質の力とバランスは例年以上の上を行く仕上がり！

VdF キャラクター 2014（白）

本来であれば3年前にリリースする予定であったが、ワインにブジョネのような香りがあり、しばらくお蔵入りになっていたキャラクター。ナタリーの説明では、雨の多い年はシレックスをブドウがより多く吸収し、その鉱物のニュアンスがブジョネに似た香りを発することがあるとのことだった。コルクから来るブジョネではないので、ワインを寝かせることで香りが消えていくとのアドバイスを受け、しばらくの期間日本の倉庫でワインを放置。今年の6月にナタリーのところで彼女がストックしているキャラクター2014年を飲ませてもらったところ、熟成により当初の嫌味は消え、見違えるほど美味しくなっている！

今回満を持してリリースです♪

ミレジム情報 当主ナタリー・ゴビシェールのコメント

2013年のラングドックは、最終的に良質共に満足の行く当たり年だった！春は比較的雨が多く時折寒さもあり、ブドウの成長は例年よりも2週間ほど遅かった。開花は1週間で順調に終わり、この時点でブドウの房もたくさん付いていた。6月終わりから一気に気温が上がり、ブドウの成長にアクセルがかかり始めたと同時に雑草も一気に伸び始め、雑草のもたらす湿気がミルデュー、オイディウムなどの病気を誘発した。この時期の約1ヶ月は草刈りと散布に毎日奔走した。夏時期の昼間は暑かったが、夜の気温が例年よりも涼しかったおかげで、結果ブドウに酸が残り、糖分が乗りすぎる前にフェノールも熟した最高のブドウを収穫できた！

2014年のロワールは、スズキが猛威を振るった年だった。冬が暖冬で、霜もほとんど下りずにそのまま春を迎えた。春はまるで夏のような良い天候に恵まれ、ブドウの成長ペースも1ヶ月ほど早かった。だが、5月中旬から8月まで天候が崩れ、雨が多く気温の上がない日が続いた。畑では病気の不安があったが、適切なボルドー液散布で何とか乗り切った。9月に入って再び天候が回復し、ブドウは一気に完熟に向かったが、9月下旬ショウジョウバエのスズキが猛威を振るい、赤のブドウ品種はたった3日間で収量が60%減、白のブドウ品種もキャラクターの一部が被害に遭った…。

2016年のロワールは、春と夏の気候が極端な年だった。冬は暖冬で春も比較的暖かかったため、ブドウの発芽もいつもより早かった。だが、その早い芽吹きが仇となり4月27日に襲った遅霜に最初の芽の多くがやられた。その後6月終わりまで不安定な天候が続き、シュナンの一部が花ぶるいに遭った。7月に入ると天候は一転、暑く乾燥した天候が続いた。7月の終わりには気温が40度を超える猛暑があり、一時はブドウの成長にもブレーキがかかったが、8月下旬に適度な雨が降ってくれたおかげで、再びブドウはゆっくりと成熟に向かった。

一方ラングドックは、収量こそ前年よりも落ちたが、質的には2013年のような当たり年に恵まれた！春は適度に雨が降り、暖かい気候にも恵まれたため幸先の良いスタートが切ることができた。だが5月に入り、開花時に真夏のような猛暑が数日続き、一部早熟系のブドウは花が焼けてしまうような現象が起こった。6月に入っても雨の降らない日が続き一時は日照りが心配されたが、ヴィエーユヴィーニュであるサンソーやテブレランはどうか持ちこたえることができた。7月も雨が降らない日が続き、さすがにブドウも取れ落ちる寸前までバテていたが、8月中旬に奇跡的に50mm程度の雨が降ったおかげで再びブドウも元気を取り戻し、無事収穫までたどり着くことができた！

2017年のロワールは、2年連続霜の被害に遭った。冬のスタートは暖冬でブドウの発芽も例年より1ヶ月早かった。芽が成長の勢いを増した4月終わりにマイナス7℃まで気温が下がり畑はモルティエ以外ほぼ壊滅…。その後、副芽が少ないながらも房をつけたが、主芽と副芽のブドウに熟成の差が出てしまった。5月はほぼ毎日雨が降り、追い打ちをかけるようにミルデューが畑に蔓延した。だが6月に入ると一転、雨の降らない乾燥した天気が8月の初旬まで続いた。途中猛暑もあり、いったんブドウの成長にブレーキがかかったが、中旬に適度な雨が降ったおかげでブドウの成熟が一気に進んだ。しかしながら、霜の影響によりブドウの成熟がバラバラだったので収穫日の決定に苦労した。

一方ラングドックは、ロワール同様に4月終わりに霜に遭い主芽の60%が被害に遭った。だが、その後副芽がある程度房をつけてくれたおかげで、最終的に収量は大きく落ちることがなかった。霜以外は何事もなく順調にブドウは成長し、夏に日照量に恵まれたおかげで、成熟のスピードが早まり、最終的に傷ひとつないきれいなブドウを取り入れることができた。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



写真① ピノドニスの収穫

今回はナタリーを追いかけて北へ♪たまたまこの週はブリゾーにいるとのことで、急ぎよ彼女に会いにロワールまで足を運んだ。私が訪問をしたときはちょうどピノドニスの最後の収穫を終えるところだった。見てくださいこの立派なピノドニスを！（写真①）ナタリー曰く、2018年は平均収量が30 hL/haに達した久々に大豊作に恵まれた年なのだそうだ！（でも、30 hL/haが大豊作なんて…どれだけ過酷な環境なんだ!?) ちなみに、ここはブリゾーの畑。ブリゾーは通常シュナンの畑だが、端の6列だけクリスチャンがかつてピノドニスを植えたそうで、このピノドニスがこれだけブドウを付けたのは、ナタリーも今年が初めてかもしれないと驚いていた。

ナタリーと一緒に収穫している人たちはドメーヌの近くに住むロマの人たち。（写真②）彼らはジプシーのように住所を持たず、キャンピングカーで移動しながら季節労働者としてフランス各地を回り生計を立てている人たちだ。ナタリー曰く、近年はフランス人に収穫の募集をかけても、肉体労働の割には賃金が安いという理由でほとんど集まらず、どうしても彼らのような移民の労働力に頼らざるを得ないそうだが、ナタリーにとっても黙々と仕事に集中するロマの人たちの方が効率が良かったため、今年はずいぶんフランス人の募集を一切かけなかったそうだ。毎年各地の収穫に参加している私から見ても、近年は外国の労働者、特にフランス語をほとんど話さないブルガリアやハンガ



写真② 収穫をするロマの人たち

リー、ポーランドなど東欧からの収穫者が増えている傾向を肌で感じる。ナタリーが言うには、ロマの人たちは今までの仕事が東欧の人たちに奪われるのではないかと危機感を感じているようだ。

フランス人が敬遠する単純労働を賄うロマ人。その単純労働をさらに安い賃金で請け負う東欧の人たちの出現…。移民大国のフランスで起こっているこの現象は、他のヨーロッパ諸国のみならず、日本でも入国管理法改正による移民問題がヒートアップしていることを考えると、日本も決して他人事ではないと感じている。

（2018.9.21.のドメーヌ突撃訪問より）

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大い鮮明な写真をぜひご覧くださいませ